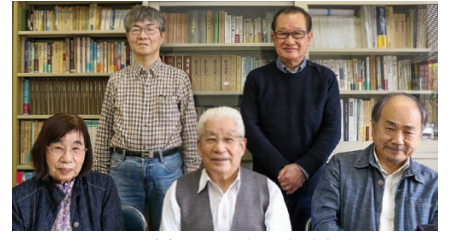


まちのキラリびと



仲間たちと（会長は前列中央）

「歴史を楽しみながら、知り得た喜びや感動を多くの人と共有したい」

気比史学会 会長 **糴谷 好晃** さん



今までに発刊した歴史出版物の数々

歴史を掘り起こし、歴史のひだを伸ばして市民に伝える

気比史学会は、昭和52年の立上げから、今年で44年目を迎える「地域史」研究団体です。敦賀市の歴史だけでなく、周辺の地域や大陸との交流などの関係を含めた幅広いグローバルな視野で歴史を紐解く活動を続けてきました。

主な活動として、「市民歴史講座」の企画・運営、歴史の話題や疑問を気楽に語り合う「史楽庭」の開催、また出版活動や文化財保存の啓発を行っています。

歴史を学ぶ醍醐味は、「一般に知られた通説だけでなく、先人の生活ぶりなどからにじみ出る情感」に触れることだと思っています。そのため、歴史を掘り起こす過程の中で、スポットの当たっていないなかったものに光を当ててきました。

敦賀市は古来より交通の要衝として栄えた、歴史に富んだ屈指のまちです。この歴史をまちづくりを活かしたい、そのためには、主役となる市民が我がまちに誇りを持ってもらえたらと思います。

一団体がここまで長きにわたり続けてきたのも、県内外の先生方による講座の充実と、多くの一般市民の熱心な聴講、そして本会賛助会員の支援の賜物です。引き続き、行政ともスクラムを組みながら、我々の会は「過去に学び、未来に期待し、今日に生きる」を実践しつつ、市民と歴史をつないでまいります。

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人 沓見御田植祭保存会の皆さん

女宮さんの獅子頭も新調して祭りに備えています



(写真上) 獅子舞、(写真右) 王の舞

基本情報

種別：福井県指定無形民俗文化財
【平成20年指定】
所在地：沓見
実施日：5月5日



沓見御田植祭

古の都のまじりの姿を映す

沓見地区には、信露貴彦神社とくつみ彌神社という二つの式内社（10世紀にまとめられた『延喜式』に記された神社）があり、地元では男宮さん・女宮さんと呼ばれています。この神社で5月5日に行われるのが御田植祭です。獅子舞、王の舞、田植え歌などの芸能は中世以前の古い形を残しており、これを男宮・女宮両方で一組ずつ仕立て、行列して二つの神社を歩き来するという点も特徴的です。行列のシンボルとなる大きな御幣は4m近い棒の先に扇子16枚と舞扇2枚で円形を作り、太く長い紙垂を垂らしますが、これは平安時代の絵巻物に描かれたものとそっくりです。前日の御幣立ての儀では軒先の結界中のオハケとともに御幣を立て、笛と太鼓の軽快な演奏で稲作の守り神を招きます。

多くの人が関わる大きな祭りだけに実施には負担が大きく、一旦は中断していましたが、保存会を立ち上げ、平成16年に復活しました。再開した祭りの内容の豊かさや古い形式を残す点などは、専門家を始め多くの人が驚くものでした。今後も敦賀の誇りとなるお祭りの継承に力を合わせていきたいと思えます。

広報担当者のつばやき

我が家にメダカがやってきました。白や青に輝く種類で、親戚から譲り受けました。子どもたちも、目を輝かせてよくのぞき込んでいます。でも一番はまっているのは私です。新たにサブタンクを稼働させようと計画中。子どもたちと川や海に生き物を捕まえにいきいたいなとうずうずしています。(K)

表紙に予定していた写真を差し替えることになり、急遽天筒山を登りました。体力には自信があったのですが、気のせいでした。中盤にはもう、息が上がりは足は上がらない。しかし頂上付近では、敦賀湾や中池見湿地を見渡すことができ、良い眺めだったので、ぜひ皆さんも登ってみては。(M)